

防犯ライトと留守番電話機の 設置について

公益社団法人 日本防犯設備協会 理事

アズビル株式会社 営業本部 セキュリティ営業部 担当部長 山崎 実功



昨年4月より新たに日本防犯設備協会の理事を拝命しましたアズビル株式会社の山崎と申します。経験不足なところもございますが、社内外の安心と安全のキーマンとして皆様のお役に立てるよう努めてまいりますので、何卒ご指導、ご鞭撻のほどお願いいたします。

少し自己紹介させていただきますと、アズビル株式会社（当時は山武ハネウエル株式会社）に入社したのは1989年4月になります。当時はセキュリティ室という小さな部署でスタートを切って約半年がたっている状況でした。それ以来今日まで世の中の安心、安全に少しは貢献できたのでは？と考えております。

生まれたのは静岡県の田舎の駿河小山というところで、“足柄山の金太郎”の故郷の近くです。学生時代は神奈川県に転居した自宅からの通学をしており、朝には“愛犬ボンタ号”の散歩、夜にはハムスターの世話と忙しい生活を送っておりました。社会人になってからは会社の寮から通勤をしておりました。

そんな平穏な社会人生活を送っていた私の元に1本の電話が入りました。

「お前、今どこにいる？会社か？」

電話の主は実家の父親でした。

「相手の怪我の具合はどうだ？話しは済んだか？」

突然の事故を思わせる話の内容に困惑したのをよく覚えています。

「いまは、会社。ディスクワーク中で何ともないよ。」

「それよりいきなり怪我の話なんて何かあったの？」

父親が続けます。

「少し前に、お前から会社の営業車で外出中に事故を起こしてしまって…」

と電話があったそうで、相手方は高級車のベンツらしく示談金250万円がすぐに必要であるとお金の相談があったそうです。

父は相手の連絡先を聞いていましたが、私の伝えていた連絡先と異なっていたために混乱して、私の会社の連絡先に連絡してきたようでした。

偽の電話主は何となく泣きながら「俺だよ、俺だよ」と最初にはなしていたそうです。

父はそれに対して「実功か？実功か？」と私の名前で返事をしてしまったそうで、次には

「そうだよ実功だよ、風邪を引いているから声が少し変かもしれない。」と偽の電話主は答えたそうです。世に聞く“オレオレ詐欺”が我が家の家族に対して今まさに行われていることに強い憤りを覚えました。

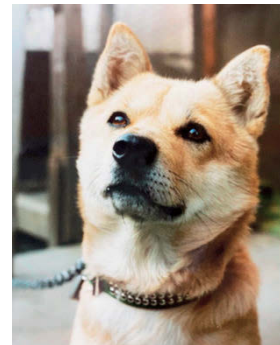
それからすぐに父に以下を伝えました。

- 電話をかけてきたのは私ではなく偽の電話主でこれは“オレオレ詐欺”である。
- 警察署に“オレオレ詐欺”の電話があった事を伝え、控えてある電話番号も連絡すること。
- 今後も嘘の事故の当事者を名乗る関係者からの連絡があるかもしれないが、すべて虚偽の内容であるので、記録を取り警察に相談できるようにすること。
- 何か気になることが他にあればすぐ私に電話すること。

父は「やっぱりそうか。どうりで何か変だと思った。」と納得し電話を切るとすぐに最寄りの警察署に連絡したそうです。ちなみに控えていた電話番号は全く関係のない連絡先であり、その後に変な電話も無く、被害の事実もないので本件は一旦完了となったのですが、今後の同様な案件に対する対策もしっかりする必要があると感じた一件でした。

今後も実家には高齢の父母がいるので何か対策しないとなあと考えて以下を行いました。

- 不審者対策として玄関と裏の人感センサー付き防犯ライトの設置
→家の外部コンセントがあったので比較的簡単に設置が可能でした。昼夜判別出来、夜間のみ点灯する仕様。明るさは申し分なし。“愛犬ポンタ号”もいるので不審者には万全でしょうか？
- 特殊詐欺対策として留守番電話機の設置
→電話で「おれおれ」といわれるとつい「〇〇か？」と名前を返事してしまうらしく、また電話がかかってくるとつい「山崎です」と名前を答えてしまうそうです。こうなると犯人の思うツボ。何なら電話がかかってきたら出ない方が良いのでは？



愛犬ポンタ号

という訳で、留守番電話にして相手がだれか分かってから電話に出る運用に切り替えました。これで電話をきっかけとした特殊詐欺の被害の可能性は少し減少したと思います。

私も自分の携帯電話に知らない連絡先から電話があった場合はすぐに応答せず、留守番電話を聞いて折り返し電話することになっています。最近は中国本土や不明となっている地域からの着信もあり、よからぬグループによるもの？ではと危惧しております。当然折り返すことはしていません。

皆様のご実家やご自宅の電話対応や防犯対策はいかがでしょうか？

こうして原稿を書いている今でも、自治体の緊急放送で市内の特殊詐欺の注意喚起放送が流れています。明日は我が身として気を付けたいものです。